

美術

美術科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
ものや事象を多角的に捉え、様々な視点があることを理解するとともに、創造的に表すことができる力。	表現の意図や工夫、想いや美術の働きについて考え、豊かに発想したり構想を練ったりして、感じ方を深める力。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	<p>ア 子供らしい素直な感性をもっているが、技能や知識の定着にやや時間がかかる。</p> <p>イ 単元に興味をもって取り組めるが、自分の表現に自信が足りずに、のびのびと工夫する力がやや弱い。</p>	<p>ア 基本的な知識や技能を、プリントや画像を使って視覚的に分かりやすく提示し、指導する。</p> <p>イ 他の作品の鑑賞の機会を多く取り、構想を深めたり、自分のいいところを見付けるヒントをつかんだりする機会を増やす。</p>	通年 年間4回以上	
第2学年	<p>ア 基礎・基本は定着してきているが、それを別のイメージへ応用していく力がやや弱い。</p> <p>イ 好奇心を持って意欲的に取り組む生徒が多いが、作品の思いや意図を理解したり、それを自分の作品へ生かしたりする力がやや弱い。</p>	<p>ア 視覚的に分かりやすい動画や図を使用し、イメージを膨らませやすい方法を多く利用する。</p> <p>イ 鑑賞の機会を多く取り、他の作品の色や構図のもつイメージを学ぶ機会を増やす。</p>	通年 年間3回以上	
第3学年	<p>ア 自分や他者の作品を理解し、次へ生かす意欲は向上している。表現したいことをもう少し客観視できる力がつくとなお良い。</p> <p>イ 知識や技術を活かし、表現に工夫をしようとする意欲は見られるが、作品を深く理解しようとする意識がやや弱い。</p>	<p>ア 段階ごとに教員や生徒がコメントを伝える機会を増やし、他者の目からはどう見えるのか意識できる機会を増やす。</p> <p>イ 自分の作品について深く考える機会を設けるとともに、他の作品に込められた想いを考え、良さを感じ取る機会を意図的に設ける。</p>	通年 年間3回以上	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <ul style="list-style-type: none"> • 道具の使い方や、進め方の手順など、段階ごとに分けた動画を編集作成し、生徒がタブレット端末を使い、自分の進度に合わせて必要な情報を得られるようにする。(全学年)【重点：個別】 • 自分の意見や考えを、ロイロノートなどを使って共有したり、作品に対しての感想を伝え合う機会をつくる。(1・2学年)【重点：協働】 	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本時の目標の提示と、単元ごと、授業ごとに振り返りを行う学習レポートの作成。 • 単元ごとに自分の作品を振り返り、次への意欲や課題について考える鑑賞レポートの作成。
---	--